

学生ボランティアが地域に笑顔を ～行事をけん引する学生、つなぎ支える町内会～

荒町地区連合町内会 会 長 武川 由美子さん



こども食堂が交流の場、学びの場に

「親御さんの仕事が忙しくこどもたちだけでご飯を食べることも多い」という話を耳にし、連合町内会と社会福祉協議会で9年前にこども食堂「すまいる食堂」を始めました。最初はこどもだけの参加でしたが、親御さんや高齢者の参加も増えてきて、みなさんの『おいしい』という言葉が嬉しく、活動の励みになっています。

東北学院大学が移転してきた縁もあり、学生が会場設営や調理など運営スタッフとして参加してくれています。彼らもコロナ禍でボランティア活動ができず、活動の場を探していたようです。また、学生自身もこの活動を通して「家庭的なご飯を食べられた」「料理を覚えて家で作った」と喜びを口にするなど、食堂は参加するみんなにとって貴重な場となっています。

大学生のサポートで学習支援も実現

食堂をする中で、親御さんから「時間がなく子どもの勉強を見てあげられない」「塾に通わせるのが難しい」という悩みを聞くようになったのですが、私自身も以前から学習支援をしたいと考えていたので、「この機会にやってみよう」と決意し、大学生に相談したところ、お手伝いいただけると言ってもらえたので、冬休みや夏休みに小学生の学習支援にも取り組むことになりました。この活動をきっかけに勉強に興味を持つこどもも増え、親御さんも私たちも「やってよかったな」と喜んでいます。

世代を超えた交流で生まれる「助け合い」

すまいる食堂では、世代を超えた交流の中で、自然に「助け合い」が生まれています。例えば、箸を落とした

お年寄りに箸を持って行ってあげたり、みかんが足りない人に気づいて持って行ってあげたり、大人や先輩たちがやっていることを間近に見て、場を共にすることで、こどもたちは自然とボランティア精神を育み、大人たちは支え合いの安心感を得ているのです。

また、五橋中学校の生徒がボランティアに参加するようになったことも大きな変化です。浅漬け作りと一緒に学んだり、困った仲間を励ましたりと、こども同士の思いやりも育まれ、世代を超えた場所になっていることが何より嬉しいですね。中学生の十八番（おはこ）の浅漬けは大好評です。

地域と学生の力で広がる可能性

以前は会場設営が大変でしたが、今は学生が率先して動いてくれるので、とても頼もしく助かっています。11～3月に実施するナイトパトロール（地域を歩いて見回り防犯防災を呼び掛ける）への参加も学生から提案があり、一緒に活動しています。彼らは隅々までとても丁寧に見まわってくれるので、とても頼りにしています。

さらに、大学の地域連携課や社会福祉協議会のサポートがあることで、円滑な運営が実現しています。成果は地域のいたる場面で感じられます。街で「この間食堂で会ったね」とこどもに声をかけられたり、高齢者が「孫になりたい」と参加した子どもに言われて明るくなったりと、心温まるエピソードが絶えません。こどもや住民が安心して過ごし、人とつながれることをとても大切にしています。いつか学生やこどもたちが地域活動の担い手になってくれたら嬉しいし、私たち自身も「健康で頑張らなくちゃ」と、活動に対してのモチベーションアップにもなっています。

